

雑 報

553.31 : 550.8 (521.41) : 422.1

新潟縣茂倉鉱山鉄鉱床調査報告

昭和26年新潟縣南魚沼郡土樽村字朝日原南方に鉄鉱床の露頭が発見され、群馬縣の人、春田三郎他2名が鉱区設定を出願すると共に、鉄床價値の判定および探鉱方針を立てるため、同鉄床の調査を地質調査所へ委託申請した。

命を受けて堀越は昭和26年11月30日より5日間同鉄床調査に出張した。調査当時は積雪のため充分な観察は不能であつたが知り得たことをここに報告する。

発見された鉄床は上越線土樽駅の東4 km、標高1,200 mの附近にあつて、ここに至るには越後湯沢駅より南へ8 km、トラック道路にて朝日原部落に至り、これより山道

約3 km、徒歩にて広窪沢を上りて達する。鉄床は閃綠岩質岩石とこれの貫入によつて変成した綠色変成岩の混在する地帯にある。品位よき塊狀緻密の磁鉄鉱よりなるレンズ狀鉄体で、略々東西に連なり走向に20 m以上、厚さ1 m以上と推定されるが、積雪のため詳細は不明である。

この地方は地形の峻険と、最近トラック道路ができる迄交通頗る不便で、人跡稀な地域であつたので、今後別に露頭が発見される可能性は多いと思われる。現在認められる鉄石は優秀なものであるが、鉄量は少ない。すなわち現在は附近の地表調査探鉱の時代といふべきものであつて、従つてその結果も期待される。(堀越義一)